

8. アンケートの集計から食育活動体験会の効果を測定する

参加者に協力いただいたアンケートについて、事前・事後の提出数と各内訳を(1)に「参加者アンケートの集計の結果」としてまとめた。そして(2)に「日本型食生活の認知度と実践度の向上」の効果測定にあたっては、参加者の変化(周知については理解度、実践については行動の変化)の表れを有効層ととらえて、分析を行った。

(1) 参加者アンケート集計の結果

a) 全ての食育活動体験会の参加者総数

食育体験参加者数	5,646
----------	-------

(単位：人。以下 b) から h) まで同様)

b) アンケートの提出数と提出率

参加者アンケート	提出数	提出率
事前アンケート	5,215	92%
事後アンケート	4,710	83%

◇ チャレンジシートを作成した参加者数と提出率

チャレンジシートの作成	提出数	提出率
参加者数	4,242	※① 75% ※② 90%

※①体験会参加者数に対する割合

※②事後アンケートを提出した参加者数に対しての割合

c) 男女別 アンケート数

参加者アンケート	男	女	合計
事前アンケート	716	4,483	5,199
事後アンケート	630	4,050	4,680

※事前アンケート、事後アンケート共、提出数と合計数との誤差は未記入を除いたため。(以下、d) から f) まで同様)

d) 年代別 アンケート数

参加者アンケート	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	合計
事前アンケート	179	155	367	434	563	1,504	1,588	415	5,205
事後アンケート	151	134	324	399	489	1,393	1,442	375	4,707

※今回、参加者アンケートの記入は10歳以上を対象とした

e) 世帯状況別 アンケート数

参加者アンケート	一人暮らし	夫婦 2 人	親と子ども	3 世代同居	その他	合計
事前アンケート	781	1548	1961	643	273	5, 206
事後アンケート	696	1374	1770	598	261	4, 699

f) 職業別 アンケート数

参加者アンケート	勤め (全日)	勤め (パート・ア ルバイト)	自営業	学生	専業 主婦	無職	その他	合計
事前アンケート	527	746	320	213	1985	1275	151	5, 217
事後アンケート	453	678	269	186	1829	1132	151	4, 698

g) 地区別 アンケート数

地区	事前 アンケート	事後 アンケート
北海道	624	584
東 北	510	477
関 東	905	828
北 陸	400	394
中 部	884	728
関 西	862	781
中 国	376	344
四 国	151	144
九 州	419	373
沖 縄	84	57
合 計	5, 215	4, 710

h) 食育活動体験会別 参加者アンケートの数

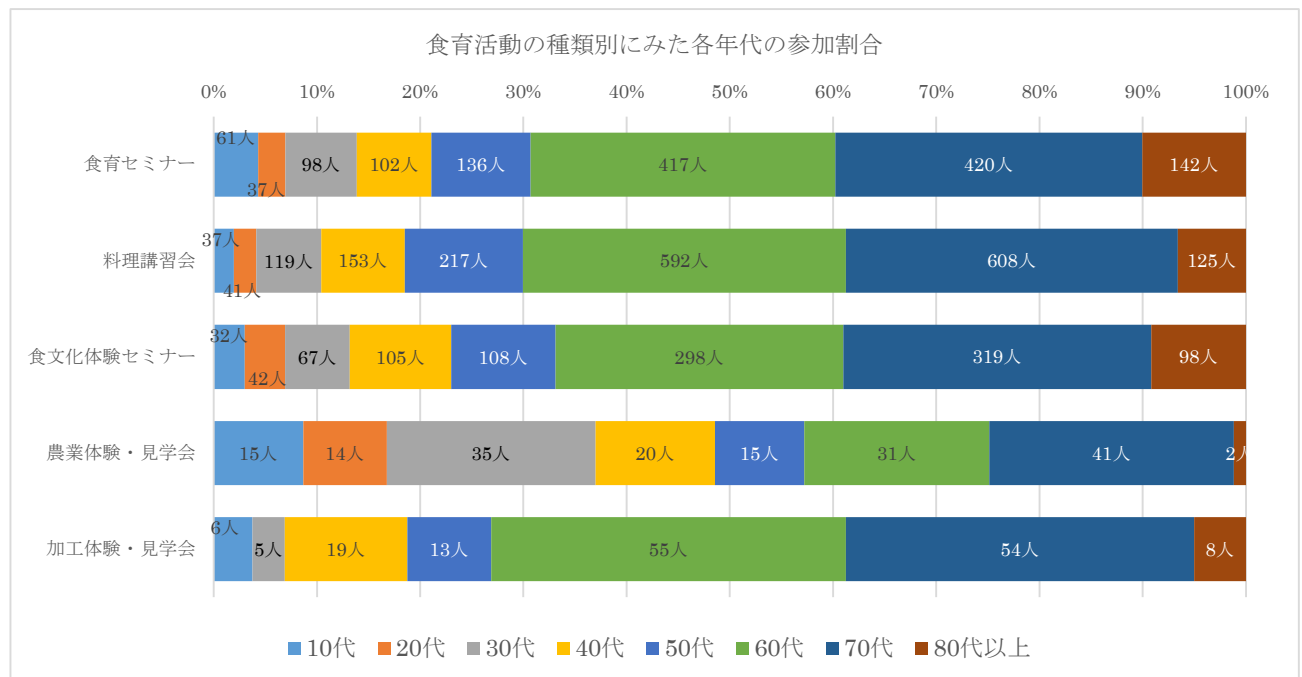
食育活動体験会	事 前	事 後
食育セミナー	1,607	1,415
料理講習会	2,046	1,892
食文化体験セミナー	1,183	1,070
農業体験・見学会	193	173
加工体験・見学会	186	160
合 計	5,215	4,710

h)-1-1 年代別 食育活動体験会参加者数（事後アンケートより集計）

食育活動体験会	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	80代以上	合 計
食育セミナー	61	37	98	102	136	417	420	142	1,413
料理講習会	37	41	119	153	217	592	608	125	1,892
食文化体験セミナー	32	42	67	105	108	298	319	98	1,069
農業体験・見学会	15	14	35	20	15	31	41	2	173
加工体験・見学会	6	0	5	19	13	55	54	8	160
合 計	151	134	324	399	489	1,393	1,442	375	4,707

※事後アンケート合計数の誤差は記入漏れのため。

h)-1-2 年代別 食育活動体験会参加者数（グラフ）



h)-1-3 年代別 食育活動体験会参加者数の結果

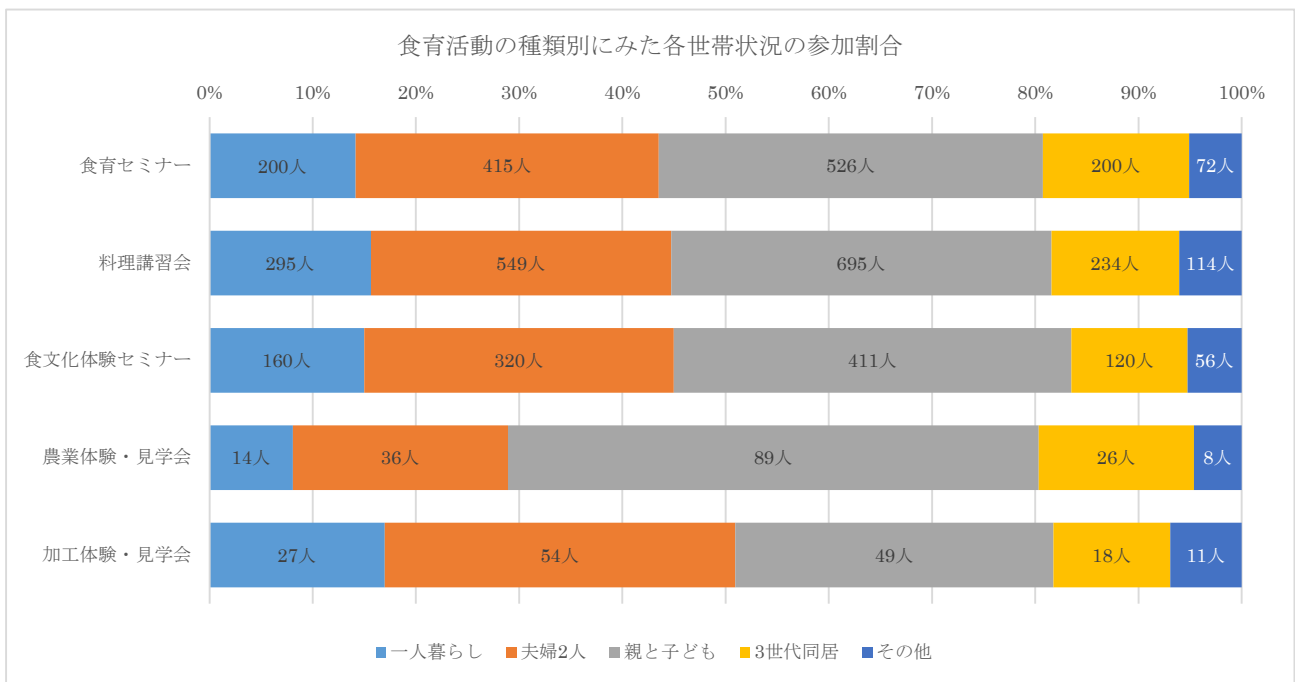
農業体験・見学会は、40代以下が多く50%を超える結果であったが、その他の食育活動体験会は、60代以上が60%を超えた。

h)-2-1 世帯状況別 食育活動体験会参加者数（事後アンケートより集計）

食育活動体験会	一人暮らし	夫婦2人	親と子ども (割合:%)	3世代同居	その他	合 計
食育セミナー	200	415	526(37)	200	72	1,413
料理講習会	295	549	695(37)	234	114	1,887
食文化体験セミナー	160	320	411(39)	120	56	1,067
農業体験・見学会	14	36	89(51)	26	8	173
加工体験・見学会	27	54	49(31)	18	11	159
合 計	696	1,374	1,770(38)	598	261	4,699

※事後アンケート合計数の誤差は記入漏れのため。

h)-2-2 世帯状況別 食育活動体験会参加者数（グラフ）



h)-2-3 世帯状況別 食育活動体験会参加者数の結果

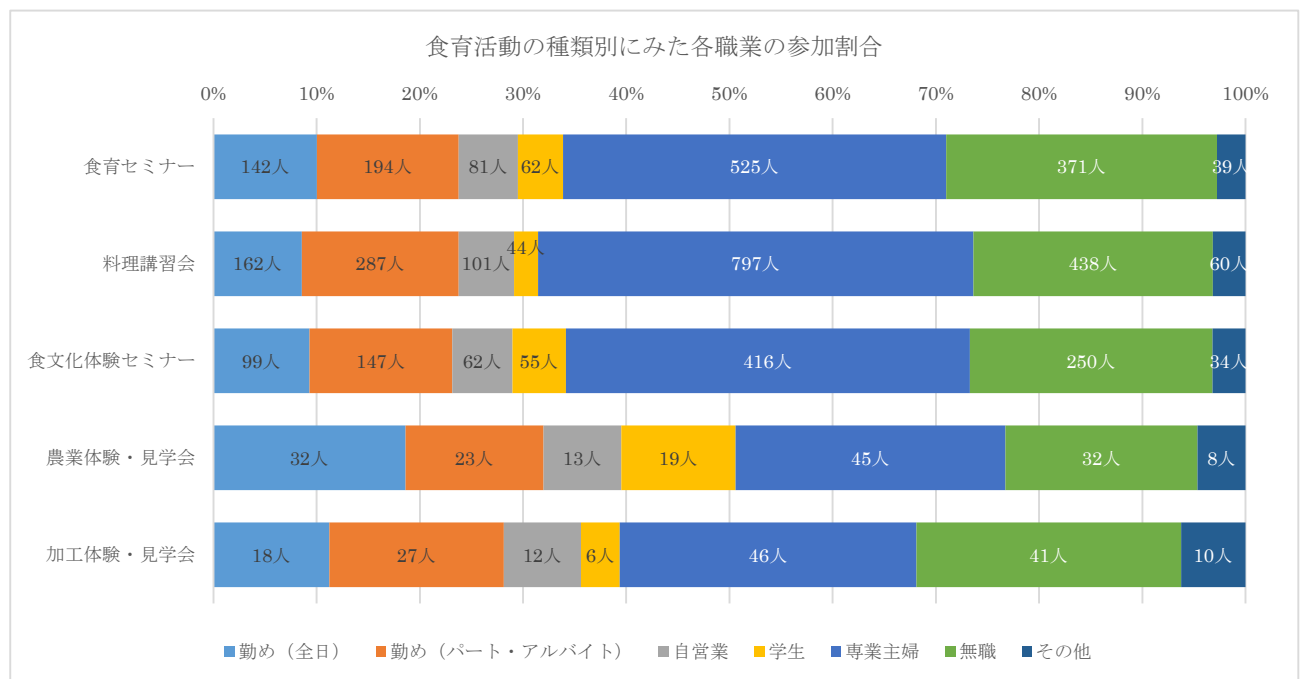
親と子ども世帯の参加者の割合が全活動合計で38%を占めていた。特に農業体験・見学会においては51%であった。このことは、食育上、大変意義ある結果を表している。

h)-3-1 職業別 食育活動体験会参加者数（事後アンケートより集計）

食育活動体験会	勤め (全日)	勤め (パート・アルバイト)	自営業	学 生	専業 主婦	無 職	その他	合 計
食育セミナー	142	194	81	62	525	371	39	1,414
料理講習会	162	287	101	44	797	438	60	1,889
食文化体験セミナー	99	147	62	55	416	250	34	1,063
農業体験・見学会	32	23	13	19	45	32	8	172
加工体験・見学会	18	27	12	6	46	41	10	160
合 計	453	678	269	186	1,829	1,132	151	4,698

※事後アンケート合計数の誤差は記入漏れのため。

h)-3-2 職業別 食育活動体験会参加者数（グラフ）



h)-3-3 職業別 食育活動体験会参加者数の結果

専業主婦が参加人数、割合ともに最も多く、次いで、無職、勤め（パート・アルバイト）、勤め（全日）の順であった。

(2) 日本型食生活の認知度と実践度の向上

① 日本型食生活の理解について

・ 事前アンケート Q2 「あなたは日本型食生活をご存知ですか」の回答集計

回答内容	回答数(人)	割合 (%)
内容を含めて知っている	2,405	47
言葉は聞いた事がある	1,796	35
知らなかった	964	18
合 計	5,165	100

◇食育活動体験会の事前に、日本型食生活を知らなかった人は18%であった。

・ 事後アンケート Q3(1) 「日本型食生活の理解についてお伺いします」の回答集計

回答内容	回答数(人)	割合 (%)
より一層理解が深まった	2,309	50
少し理解が深まった	2,064	45
あまり変わらなかった	253	5
合 計	4,626	100

◇食育活動体験会に参加して、日本型食生活について、「より一層理解を深めた」人は50%、「少し理解が深まった」人は45%、「あまり変わらなかった」人は5%であった。

(今回のアンケートは無記名で行ったため、個人の変化を捉える事はできなかった。集計結果は、全体としての変化を表している。)

◆ 「日本型食生活の理解度の向上」の有効層の分析について

上記事後アンケート Q3(1)の結果から、「より一層理解を深めた」人50%と「少し理解が深まった」人45%の、合計95%を有効層として、食育活動体験会別に集計し、どの食育活動体験会が効果的だったかの分析を行った。

また、i) 性別、ii) 世代別、iii) 世帯状況別、iv) 職業別にも分析を加え、どの消費者に、どの食育活動体験会が効果的だったか見出した。(次ページより記載)

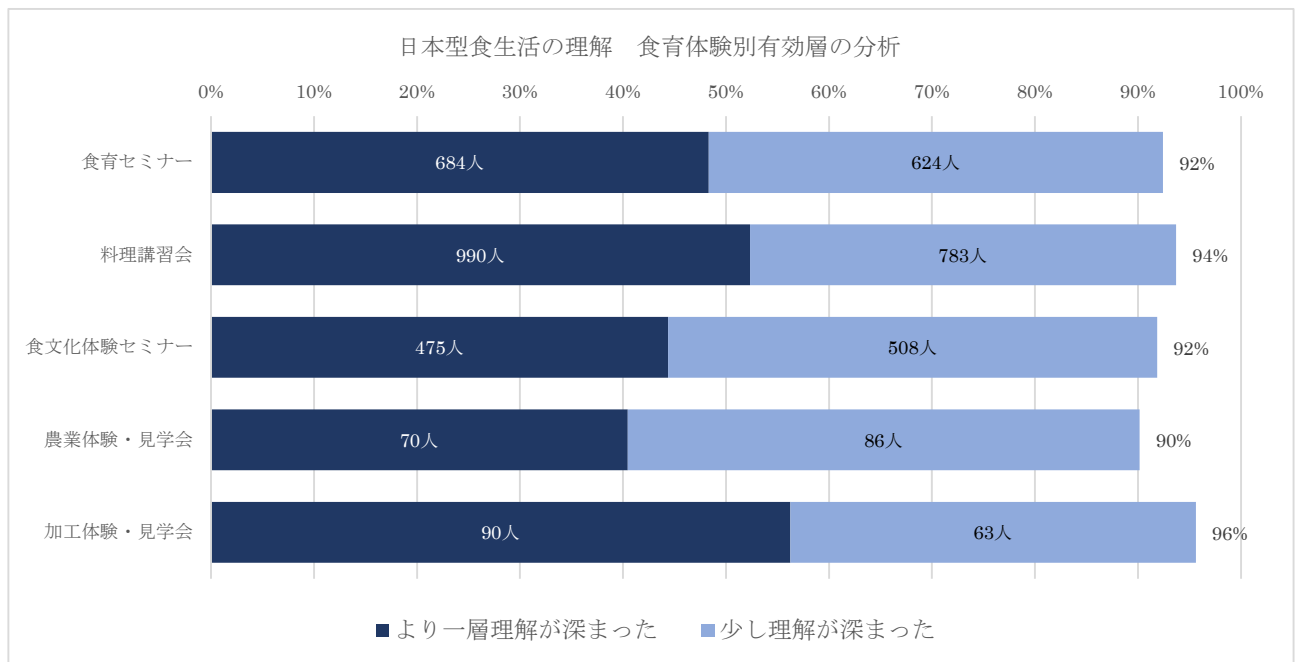
①-1 日本型食生活の理解度の向上－食育活動体験会別の集計(単位：人、割合：%)

	食育セミナー	料理講習会	食文化体験セミナー	農業体験・見学会	加工体験・見学会	合計
回答数 N	1,415	1,892	1,070	173	160	4,710
より一層理解が深まった	684	990	475	70	90	2,309
少し理解が深まった	624	783	508	86	63	2,064
有効層回答者合計 n	1,308	1,773	983	156	153	4,347
有効数の割合 n/N	92	94	92	90	96	92

※事後アンケート合計数の誤差は記入漏れのため。

①-1-2 食育活動体験会別の集計(グラフ)

N=4,710 n=4,373



①-1-3 食育活動体験会別の集計結果と考察

- A) 日本型食生活の理解度について、全ての食育活動体験会において、90%を超える人が理解を深める結果となった。このことは、農林水産省が国民にわかりやすく実行性が高まるように作成した資料「日本型食生活」のススメを配布し、これを食育資格者が説明したことが、理解の向上につながったと考えられる。
- B) 加工体験・見学会では、96%と最高率となった背景には、味噌や豆腐といった和食につながる学びができた見学会であったためと考えられる。
- C) 次に料理講習会で94%となった理由としては、以下の3点が考えられる。
- (ア) 料理講習会では、ごはんを主食とした日本型食事の献立とした。
 - (イ) 調理の基本として、ごはんの炊き方を講習の中に取り入れた。
 - (ウ) 煮干しや昆布、かつおを用いた「だしとり」を講習の中に取り入れた。

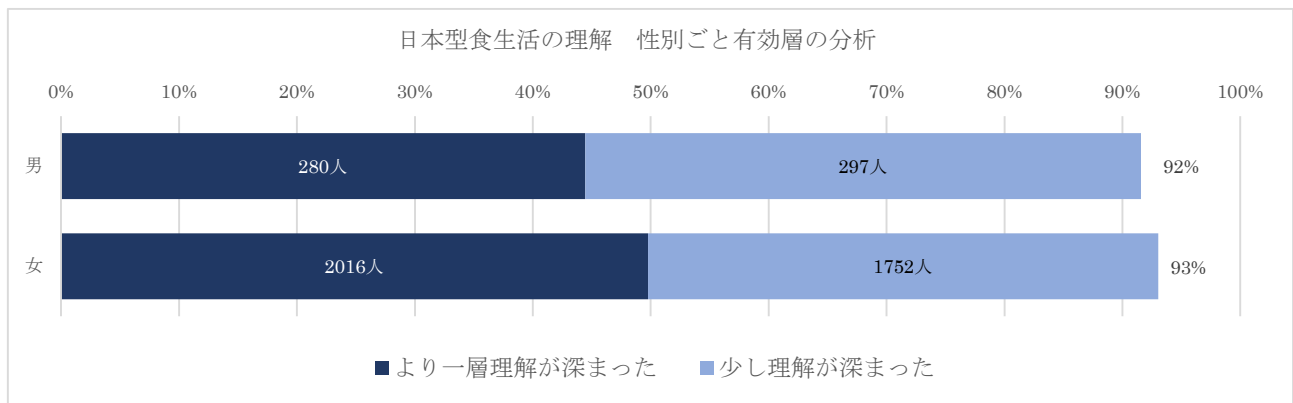
①-2-1 日本型食生活の理解度の向上一男性女性別の集計 (単位：人、割合：%)

	男	女	合計
回答数 N	630	4,050	4,680
より一層理解が深まった	280	2,016	2,296
少し理解が深まった	297	1,752	2,049
有効層回答者合計 n	577	3,768	4,345
有効数の割合 n/N	92	93	93

※合計数の誤差は記入漏れのため。

①-2-2 男性女性別の集計(グラフ)

N=4,680 n=4,345



①-2-3 男性女性別集計の結果

食育活動体験会に男女の参加者数に開きはあるものの、日本型食生活の理解度に関しては、男性と女性の差は1%で、性別に関係なく理解を深める結果であった。

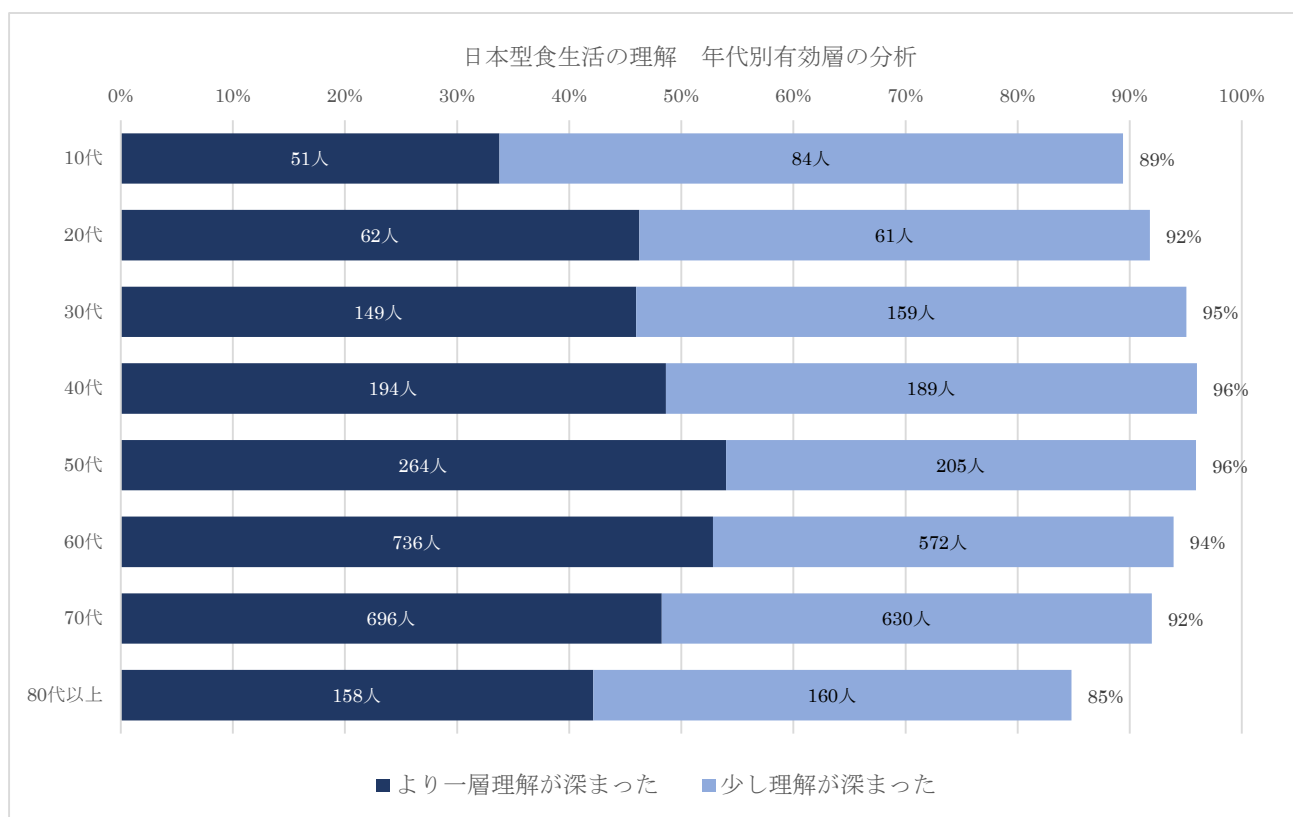
①-3-1 日本型食生活の理解度の向上一年代別の集計（単位：人、割合：%）

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	合計
回答数 N	151	134	324	399	489	1,393	1,442	375	4,707
より一層理解が深まった	51	62	149	194	264	736	696	158	2,310
少し理解が深まった	84	61	159	189	205	572	630	160	2,060
有効層回答者合計で n	135	123	308	383	469	1,308	1,326	318	4,370
有効数の割合 n/N	89	92	95	96	96	94	92	85	93

※合計数の誤差は記入漏れのため。

①-3-2 年代別の集計（グラフ）

N=4,707 n=4,370



①-3-3 年代別集計の結果

30代、40代、50代では95%を超え、その他の世代も全て85%を超える高率で、日本型食生活の理解度の向上が得られた。

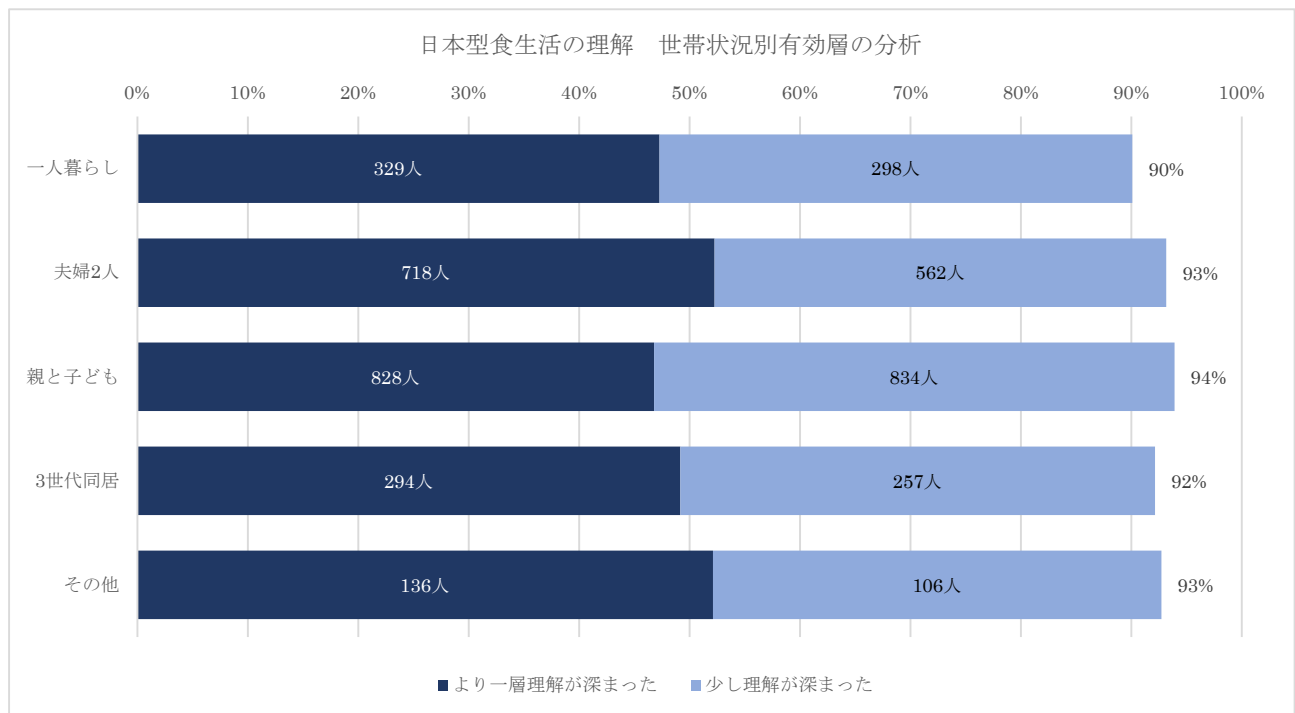
①-4-1 日本型食生活の理解度の向上—世帯状況別の集計 (単位：人、割合：%)

	一人暮らし	夫婦2人	親と子ども	3世代同居	その他	合計
回答数 N	696	1,374	1,770	598	261	4,699
より一層理解が深まった	329	718	828	294	136	2,305
少し理解が深まった	298	562	834	257	106	2,057
有効層回答者合計 n	627	1,280	1,662	551	242	4,362
有効数の割合 n/N	90	93	94	92	93	93

※合計数の誤差は記入漏れのため。

①-4-2 世帯状況別の集計(グラフ)

N= 4,699 n=4,362



①-4-3 世帯状況別集計の結果

親と子ども、夫婦2人、3世代同居、一人暮らしの順で理解度向上の割合が高く、全てにおいて90%を超える高い数値で日本型食生活の理解度が向上する結果となった。

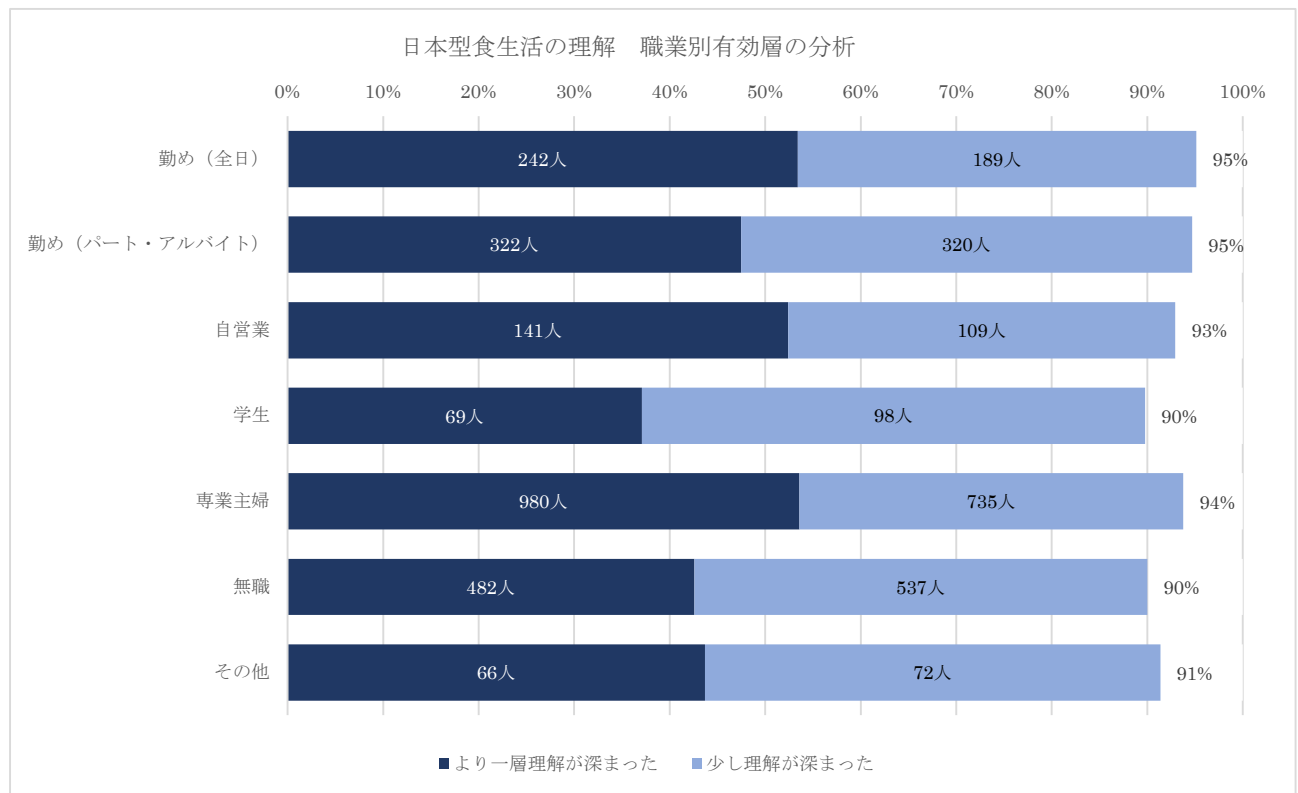
①-5-1 日本型食生活の理解度の向上一職業別の集計 (単位：人、割合：%)

	勤め (全日)	勤め (パート・アル バイト)	自営業	学生	専業 主婦	無職	その他	合計
回答数 N	453	678	269	186	1,829	1,132	151	4,698
より一層理解が深まった	242	322	141	69	980	482	66	2,302
少し理解が深まった	189	320	109	98	735	537	72	2,060
有効層回答者合計 n	431	642	250	167	1,715	1,019	138	4,362
有効数の割合 n/N	95	95	93	90	94	90	91	93

※合計数の誤差は記入漏れのため。

①-5-2 職業別の集計(グラフ)

N=4,698 n=4,632



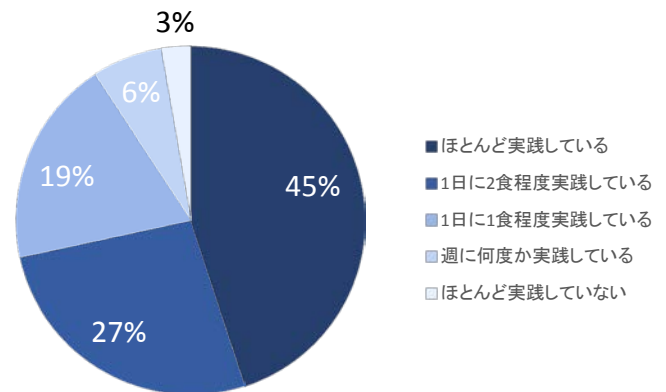
①-5-3 職業別集計の結果

勤め（全日）、勤め（パート・アルバイト）は同率、専業主婦の順に理解度の向上が見られた。学生と無職が最も日本型食生活の理解度の向上が低かったが、いずれも 90%を超える結果となった。学生には配布資料や説明に工夫が必要と感じる結果となった。

② 日本型食生活の実践度の向上について

- ・事前アンケート Q3「あなたは、ごはんを主食とした、主菜、副菜のそろった食事を実践していますか」の集計結果

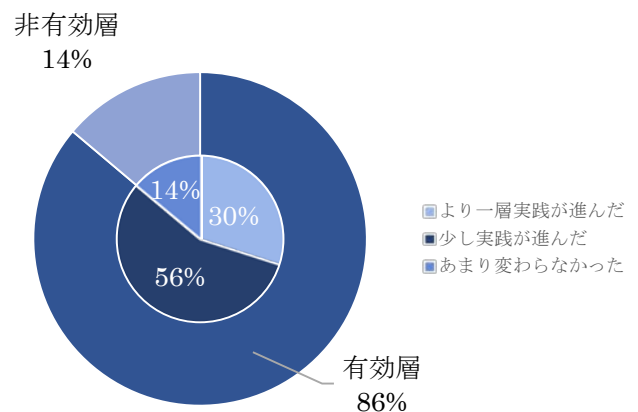
回答内容	回答数 (人)	割合 (%)
ほとんど実践している	2,319	45
1日に2食程度実践している	1,375	27
1日に1食程度実践している	991	19
週に何回か実践している	339	6
ほとんど実践していない	136	3
合 計	5,160	100



◇事前アンケート Q2 で、「日本型食生活」を「知らなかった」と答えた人は 19%であったが、Q3 では「日本型食生活」と記せず「ごはんを主食とした、主菜、副菜のそろった食事を実践していますか。」と置き換えて実践度合いを調べたところ、「ほとんど実践している」人は 45%、「1日に2食程度」の人は 27%、「1日に1食程度」の人は 19%、「週に何回か実践している」人は 6%の合計 97%で、「ほとんど実践していない」人は 3%であった。

- ・事後アンケート Q3, (2)「日本型食生活の実践についてお伺いします」の集計結果

回答内容	回答数 (人)	割合 (%)
より一層実践が進んだ	1,375	30
少し実践が進んだ	2,583	56
あまり変わらなかった	636	14
合 計	4,594	100



◆「日本型食生活の実践度の向上」の有効層の分析について

上記事後アンケート Q3 (2)の結果より、「より一層実践が進んだ」人 30%と「少し実践が進んだ」人 56%の合計 86%を有効層として、食育活動体験会別に集計し、どの食育活動体験会が効果的だったかの分析を行った。

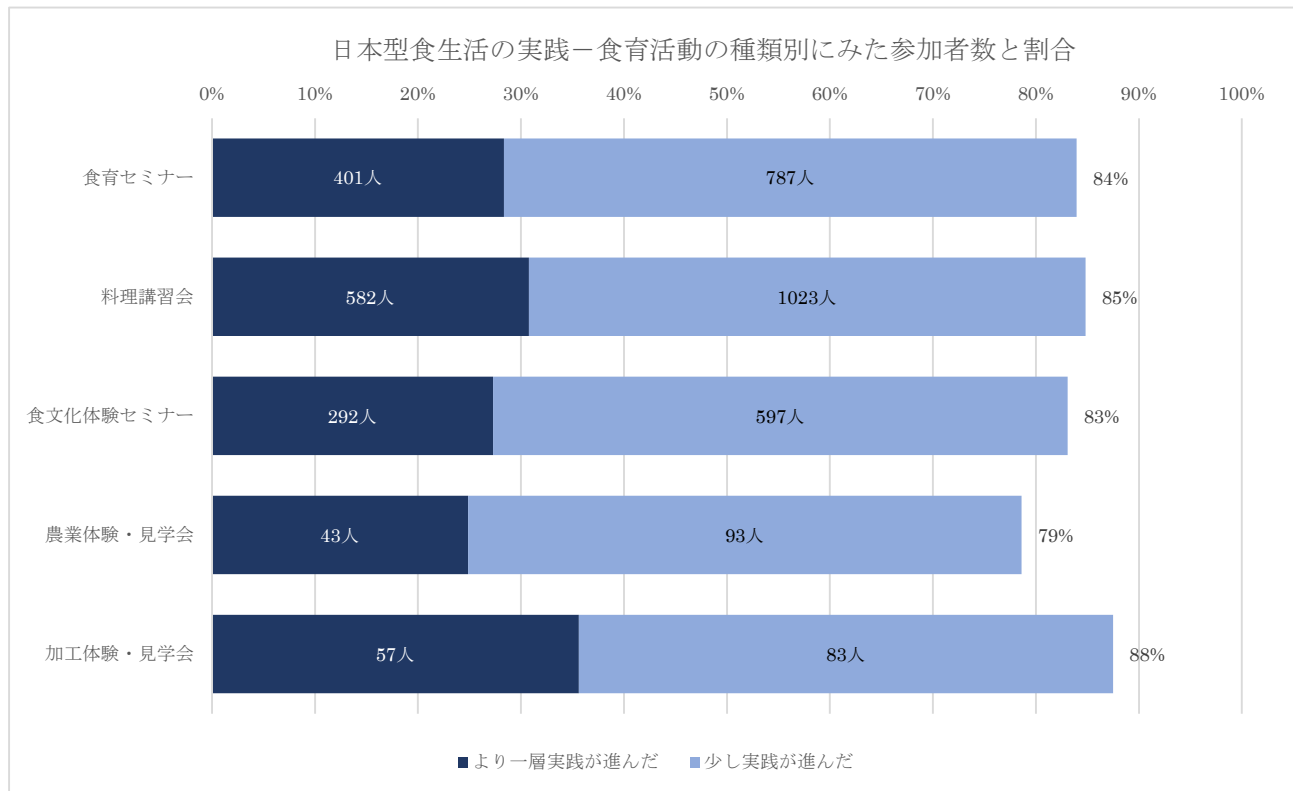
また、性別、世代別、世帯状況別、職業別にも分析を加え、どの消費者に、どの食育活動体験会が効果的だったかを見出した。加えて、チャレンジシートで、「日本型食生活」のチャレンジ項目Bを選んだ人は、「より一層実践が進んだ」と、「少し実践が進んだ」との回答につながったのかを分析した。(次ページより記載)

②-1-1 日本型食生活の実践度の向上－食育活動体験会別集計 (単位：人、割合：%)

	食育 セミナー	料理 講習会	食文化体 験セミナ ー	農業体験・ 見学会	加工体験・ 見学会	合計
回答数 N	1,415	1,892	1,070	173	160	4,710
より一層実践が進んだ	401	582	292	43	57	1,375
少し実践が進んだ	787	1,023	597	93	83	2,583
有効層回答者合計 n	1,188	1,605	889	136	140	3,958
有効数の割合 n/N	84	85	83	79	88	84

②-1-2 食育活動体験会別集計(グラフ)

N=4,710 n=3,958



②-1-3 食育活動体験会別の集計結果

加工体験・見学会に次いで料理講習会の順となり、農業体験・見学会を除いて 80%を超え日本型食生活の理解度の向上と同様の結果となった。

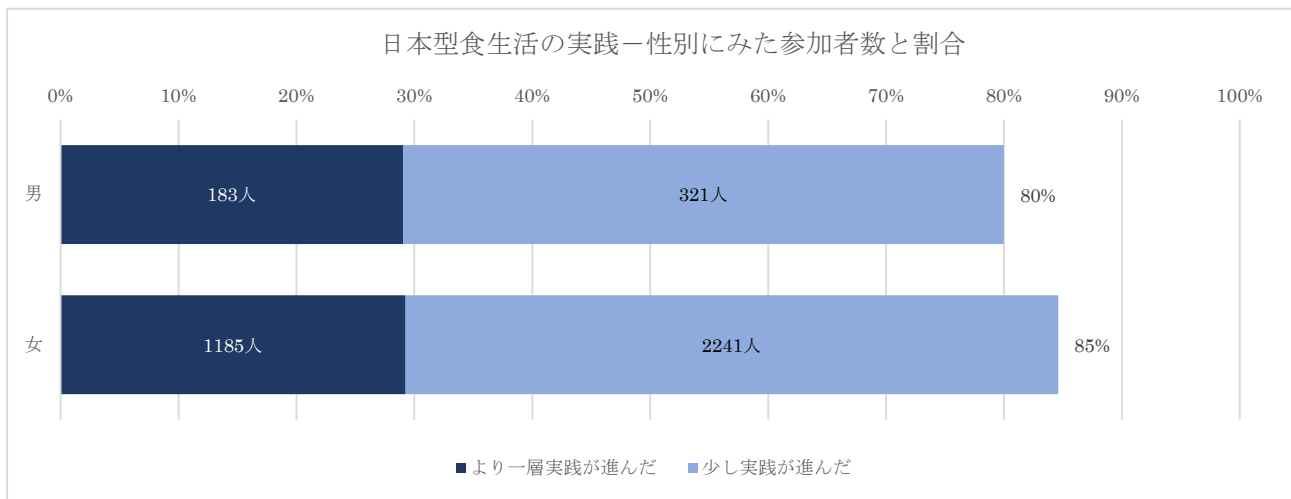
②-2-1 日本型食生活の実践度の向上－男性女性別集計(単位：人、割合：%)

	男	女	合計
回答数 N	630	4,050	4,680
より一層実践が進んだ	183	1,185	1,368
少し実践が進んだ	321	2,241	2,562
有効層回答者合計 n	504	3,426	3,930
有効数の割合 n/N	80	85	84

※合計数の誤差は記入漏れのため。

②-2-2 男性女性別集計(グラフ)

N=4,680 n=3,930



②-2-3 男性女性別集計の結果

男性 80%、女性 85%で、大差なく実践度が高まる結果となった。この数字も理解度の向上と同様の結果となった。

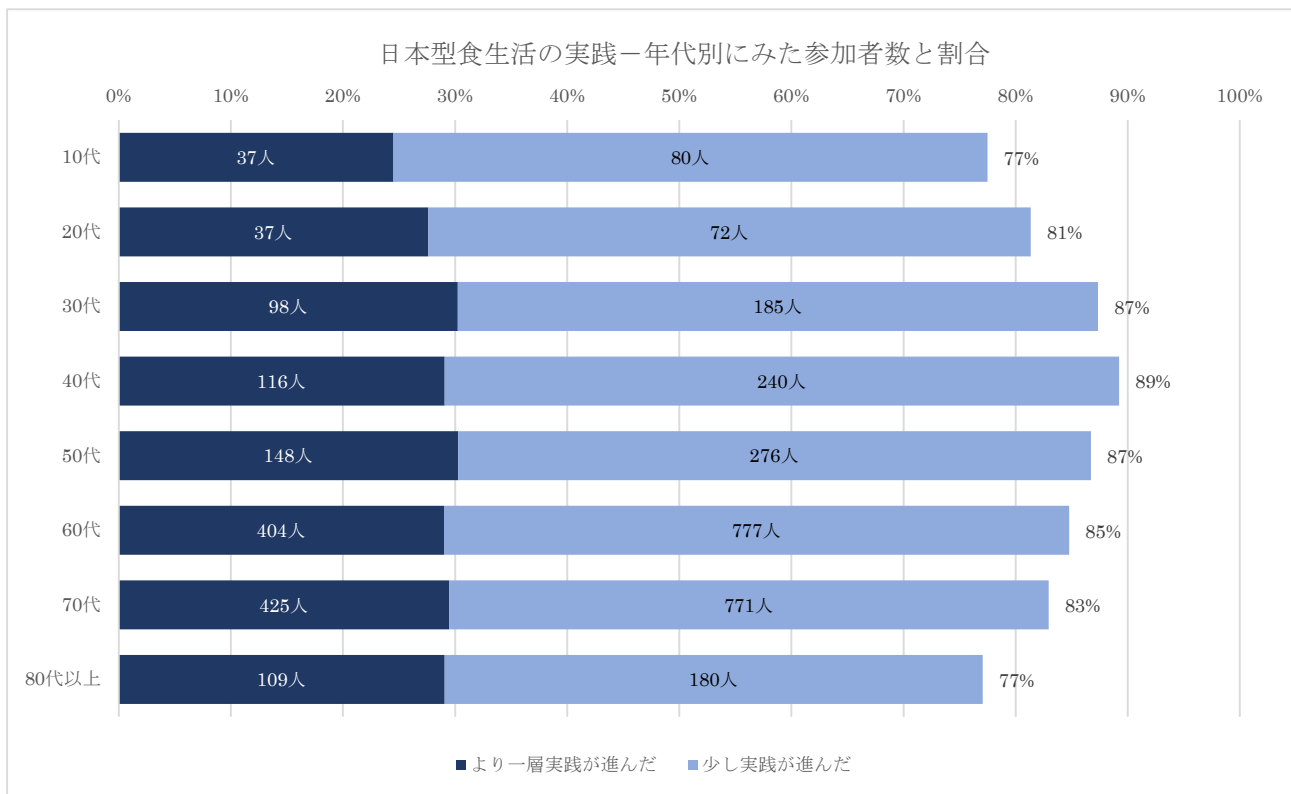
②-3-1 日本型食生活の実践度の向上一年代別集計(単位：人、割合：%)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	合計
回答数 N	151	134	324	399	489	1,393	1442	375	4,707
より一層実践が進んだ	37	37	98	116	148	404	425	109	1,374
少し実践が進んだ	80	72	185	240	276	777	771	180	2,581
有効層回答者合計 n	117	109	283	356	424	1,181	1,196	289	3,955
有効数の割合 n/N	77	81	87	89	87	85	83	77	84

※合計数の誤差は記入漏れのため。

②-3-2 年代別集計(グラフ)

N=4,707 n=3,955



②-3-3 年代別集計の結果

40代、30代、50代、60代が85%を超え、その他の世代も全て77%を超える高率で、実践度の向上が得られた。

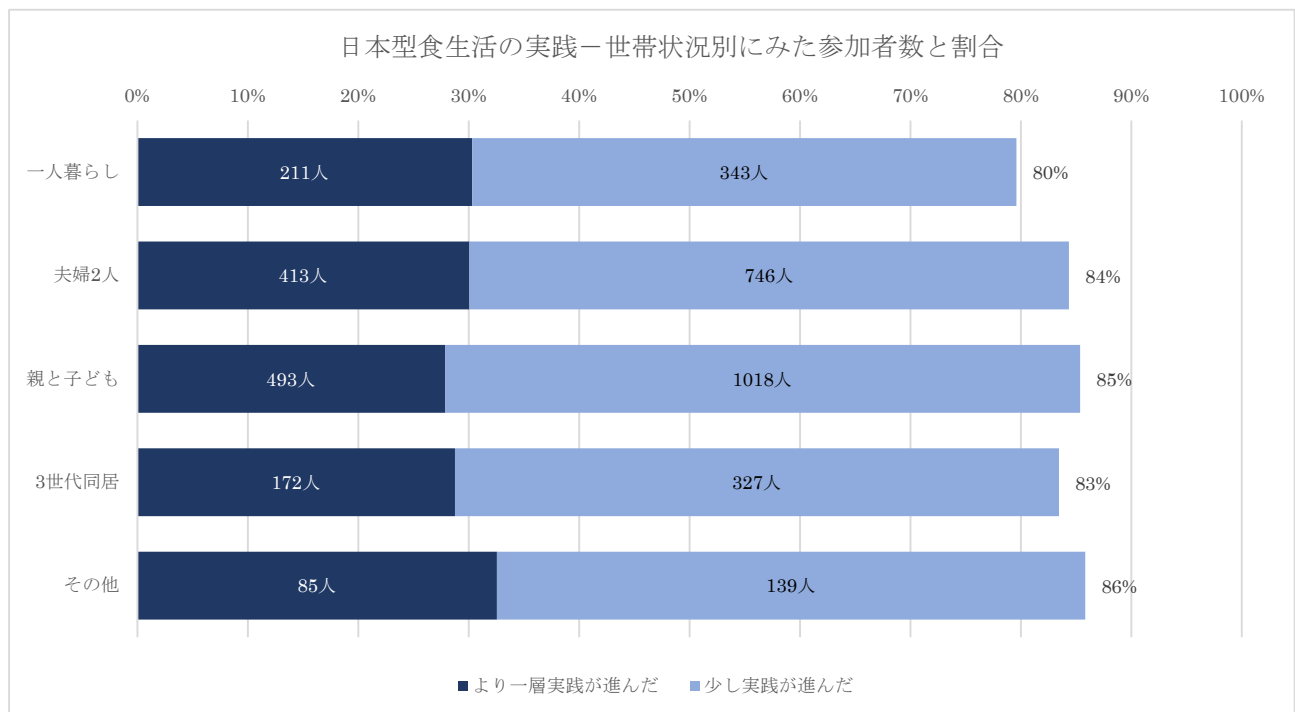
②-4-1 日本型食生活の実践度の向上―世帯状況別集計 (単位：人、割合：%)

	一人暮らし	夫婦2人	親と子ども	3世代同居	その他	合計
回答数 N	696	1,374	1,770	598	261	4,699
より一層実践が進んだ	211	413	493	172	85	1,374
少し実践が進んだ	343	746	1,018	327	139	2,573
有効層回答者合計 n	554	1,159	1,511	499	224	3,947
有効数の割合 n/N	80	84	85	83	86	84

※合計数の誤差は記入漏れのため。

②-4-2 世帯状況別集計 (グラフ)

N=4,699 n=3,947



②-4-3 世帯状況別集計の結果

その他、親と子ども、夫婦2人、3世代同居、一人暮らしの順となり、全てにおいて80%を超える高い数値で日本型食生活の実践度の向上となった。一人暮らしの人は、実践度が一番低く、周囲の支援が必要と感じられる。

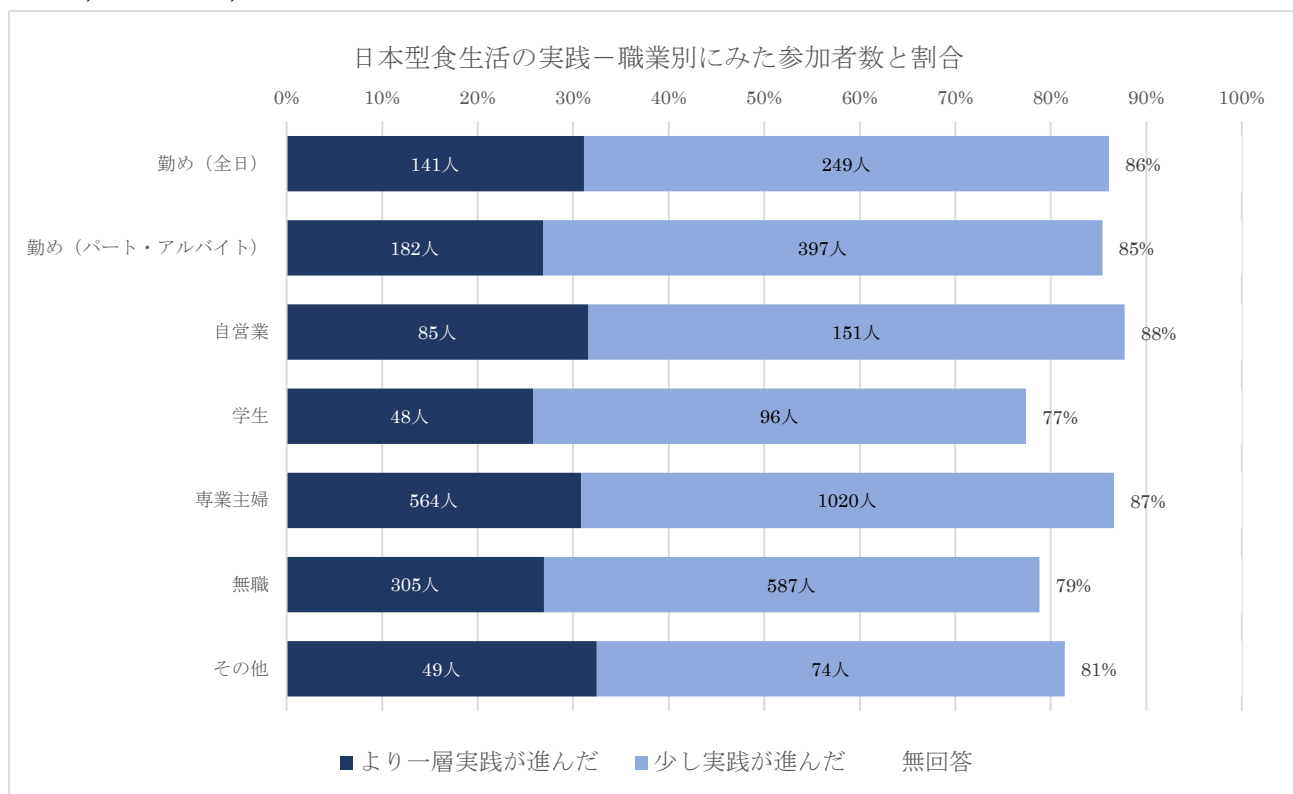
②-5-1 日本型食生活の実践度の向上－職業別集計 (単位：人、割合：%)

	勤め (全日)	勤め (パート・アルバイト)	自営業	学生	専業主婦	無職	その他	合計
参加者（事後）N	453	678	269	186	1,829	1,132	151	4,698
より一層実践が進んだ	141	182	85	48	564	305	49	1,374
少し実践が進んだ	249	397	151	96	1,020	587	74	2,574
有効層回答者合計 n	390	579	236	144	1,584	892	123	3,948
有効数の割合 n/N	86	85	88	77	87	79	81	84

※合計数の誤差は記入漏れのため。

②-5-2 職業別集計 (グラフ)

N=4,698 n=3,948



②-5-3 職業別集計の結果

自営業、専業主婦、勤め（全日）の順に、日本型食生活の実践の割合が高まり、学生と無職を除いていずれも 80%を超える結果となった。

②-6-1 日本型食生活の実践度の向上ーチャレンジシート「日本型食事をしましょう」Bの項目別の回答集計

(n=443)

チャレンジシート B 日本型食事をしましょう	より一層実践が進んだ	少し実践が進んだ	あまり変わらなかった
B-1 お米を一日 2 食は食べるようにする	36	73	13
B-2 主食・主菜・副菜がそろえるようにする	37	83	17
B-3 お肉よりも魚料理を多くする	39	79	16
B-4 揚げ物や炒め物は 1 食 1 品にする	14	29	7
合計(人数)	126	264	53
比率(%)	28%	60%	12%

②-6-2 「日本型食事をしましょう」の項目別集計の結果

Q3(2)回答集計(34 ページ)より、全体では、「より一層実践が進んだ」人は 30%、「少し実践が進んだ」人は 56%で、合計 86%であったが、チャレンジ項目で「日本型食事をしましょう」を選んだ人では、「より一層実践が進んだ」人は 28%、「少し実践が進んだ」人は 60%で合計 88%となり、2%上回る結果となった。

□ 日本型食生活の実践度の向上について～まとめ

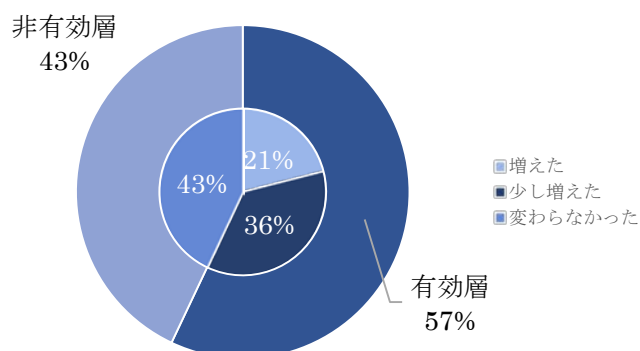
- ・ 日本型食生活の実践度は、食育活動体験会別、性別、年代別、世帯状況別、職業別の全てにおいて理解度が進んだと同様に、実践度も進んだ結果となった。このことから、日本型食生活の理解が進んだだけ実践が進むことが示された。
- ・ 性別の差はなかったが、世帯状況別集計から、一人暮らしより二人以上の世帯の方が、実践度が高いことから、孤食より共食を進める必要性も数字から理解できた。
- ・ 世代状況別集計から、10 代や 20 代、80 代以上の人、職業別集計からは学生や無職の人が、その他の世代や職業に比べて実践度が低くなった。このことは特に食生活が乱れやすい一人暮らしの高齢者、学生(若年世代)の人に対する食育が重要としている農林水産省の施策そのままを表す結果となった。
- ・ 一人暮らしの人に、共食は環境的に難しい点があることをふまえて、どのようにしていくか、今後の食育のあり方に工夫を凝らしていきたい。
- ・ このようなことを、食育資格者と確認し、今後の食育活動に活かしたい。

③ 実践がどう進んだのか、「ごはんを食べる量の変化」を集計する

- ・事後アンケート Q3, (3) の、Q3 (2) で「より一層実践が進んだ」「少し実践が進んだ」と回答された人 (n : 3, 958 名) への質問①「ごはんを食べる量や回数が増えましたか」の集計結果

回答内容	回答数 (人)	割合 (%)
増えた	807	21
少し増えた	1376	36
変わらなかった	1,645	43
合 計	3,828	100

※回答数の誤差は記入漏れのため。



◇日本型食生活の実践が進んだ人のうち、21%の人がごはんを食べる量や回数が「増えた」と答え、36%の人は「少し増えた」と答え、43%の人は「変わらなかった」と答えた。

◆「ごはんを食べる量や回数の向上」の有効層の分析

事後アンケート Q3 (3) ①の集計結果より、ごはんを食べる量が「増えた」人 21%と、「少し増えた」人 36%の、合計 57%の人を有効層とし、食育活動体験会別に集計し、どの食育活動体験会が効果的だったのかを分析を行った。

また、年代別、世帯状況別、職業別にも分析を加え、どの消費者にどの食育活動体験会が効果的だったのかを見出した。加えて、チャレンジシートで A-1「ご飯はお茶碗に軽く一杯は最低食べるようにする」及び B-1「お米を一日 2 食は食べるようにする」を選んだ人は、「増えた」と「少し増えた」、との回答につながったのかを分析した。

(次ページより記載)

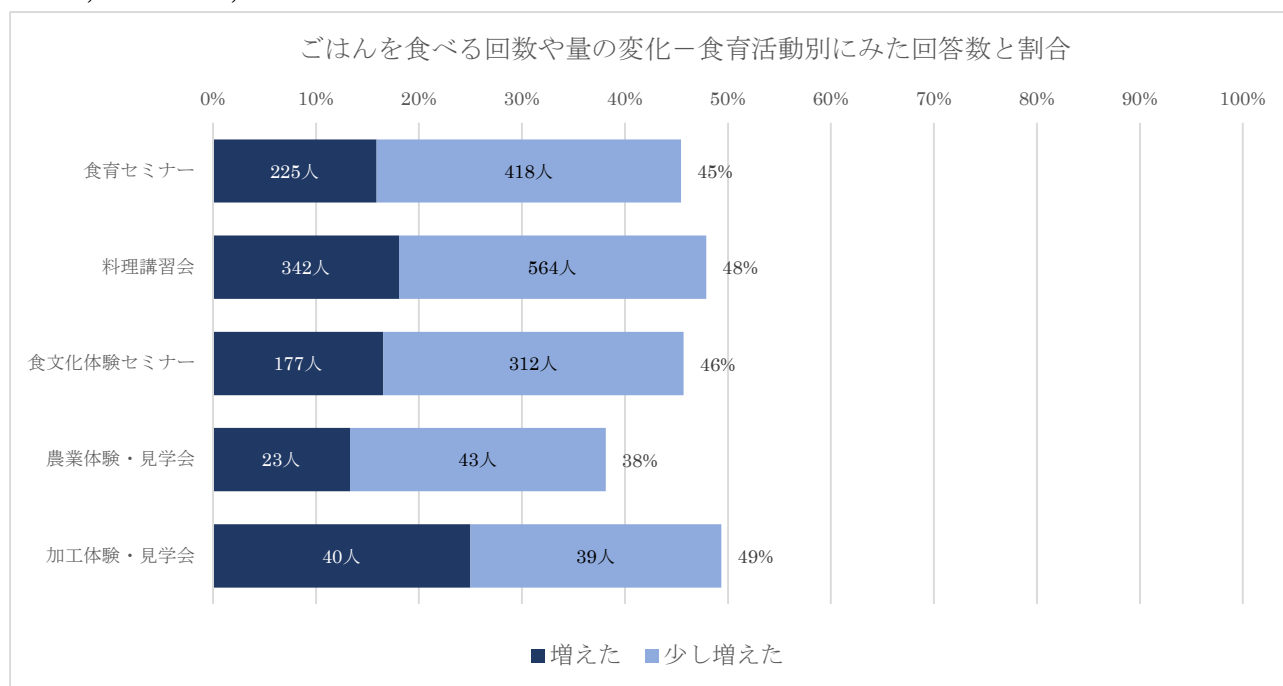
③ 実践がどう進んだのか、「ごはんを食べる量の変化」を集計する

③-1-1 ごはんを食べる量や回数の向上－食育活動体験会別の集計(単位：人、割合：%)

	食育セミナー	料理講習会	食文化体験セミナー	農業体験・見学会	加工体験・見学会	合計
参加者（事後）N	1,415	1,892	1,070	173	160	4,710
増えた	225	342	177	23	40	807
少し増えた	418	564	312	43	39	1,376
有効層回答者合計 n	643	906	489	66	79	2,183
有効数の割合 n/N	45	48	46	38	49	46

③-1-2 食育活動体験会別の集計(グラフ)

N=4,710 n=2,183



③-1-3 食育活動体験会別の集計結果と考察

加工体験・見学会と料理講習会の順に、ごはんを食べる回数や量を増やす割合が高い結果となり、有効な食育活動体験会となったことが見出された。加工体験・見学会の効果が高かったのは、和食に関係する精米所や豆腐、調味料といった日本型食生活に直結する工場見学であったためと推察される。

③ 実践がどう進んだのか、「ごはんを食べる量の変化」を集計する

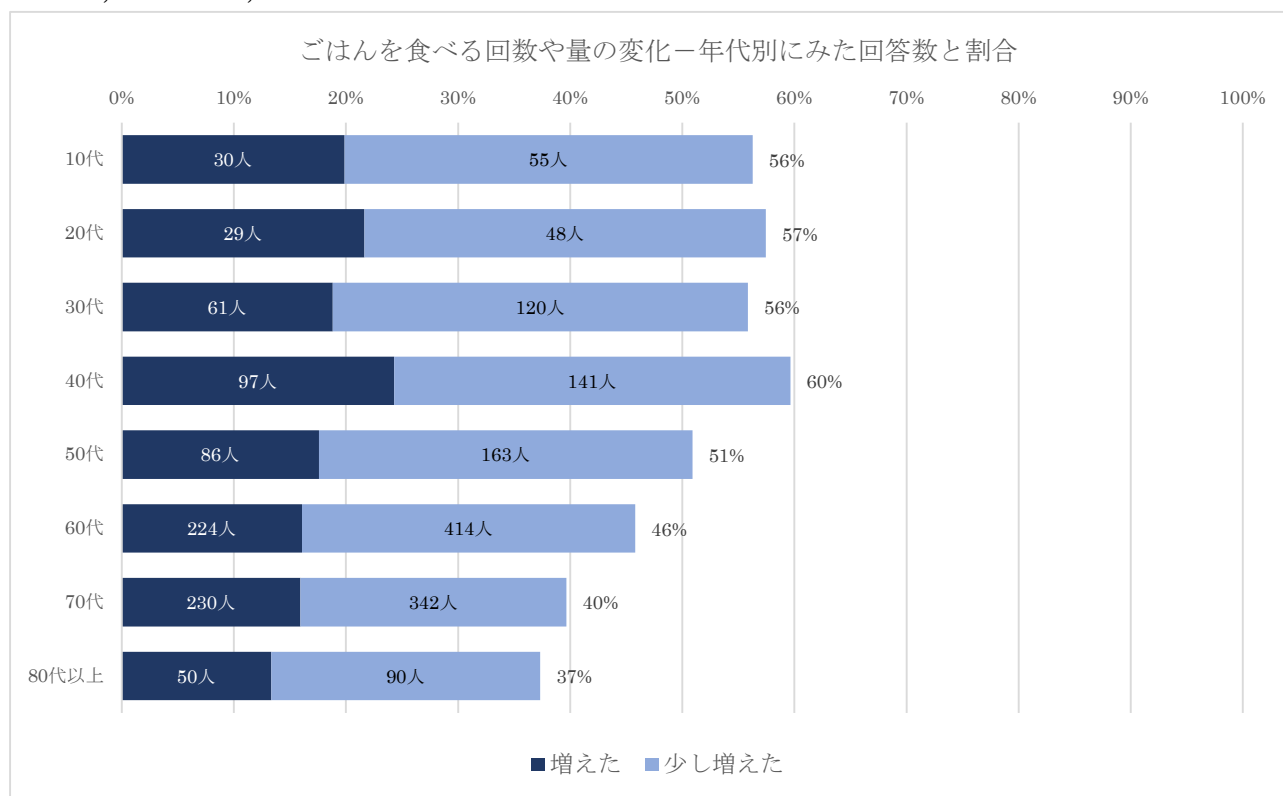
③-2-1 ごはんを食べる量や回数の向上一年代別集計 (単位：人、割合：%)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	合計
参加者(事後)N	151	134	324	399	489	1393	1442	375	4,707
増えた	30	29	61	97	86	224	230	50	807
少し増えた	55	48	120	141	163	414	342	90	1,373
有効層回答者合計n	85	77	181	238	249	638	572	140	2,180
有効数の割合n/N	56	57	56	60	51	46	40	37	46

※合計数の誤差は記入漏れのため。

③-2-2 年代別集計(グラフ)

N=4,707 n=2,180



③-2-3 年代別の集計結果と考察

日本型食生活の理解度と実践度が低調な10代と20代だが、日本型食生活の実践が「より一層進んだ」と「少し実践が進んだ」と答えた人のうち、約6割の人がごはんを増やす結果となり、その割合は他の年代と同等の結果となった。

10代と20代は、食育すれば伸びるノビシロがあることが見てとれる。この傾向は30代、40代にもあることが示された。

③ 実践がどう進んだのか、「ごはんを食べる量の変化」を集計する

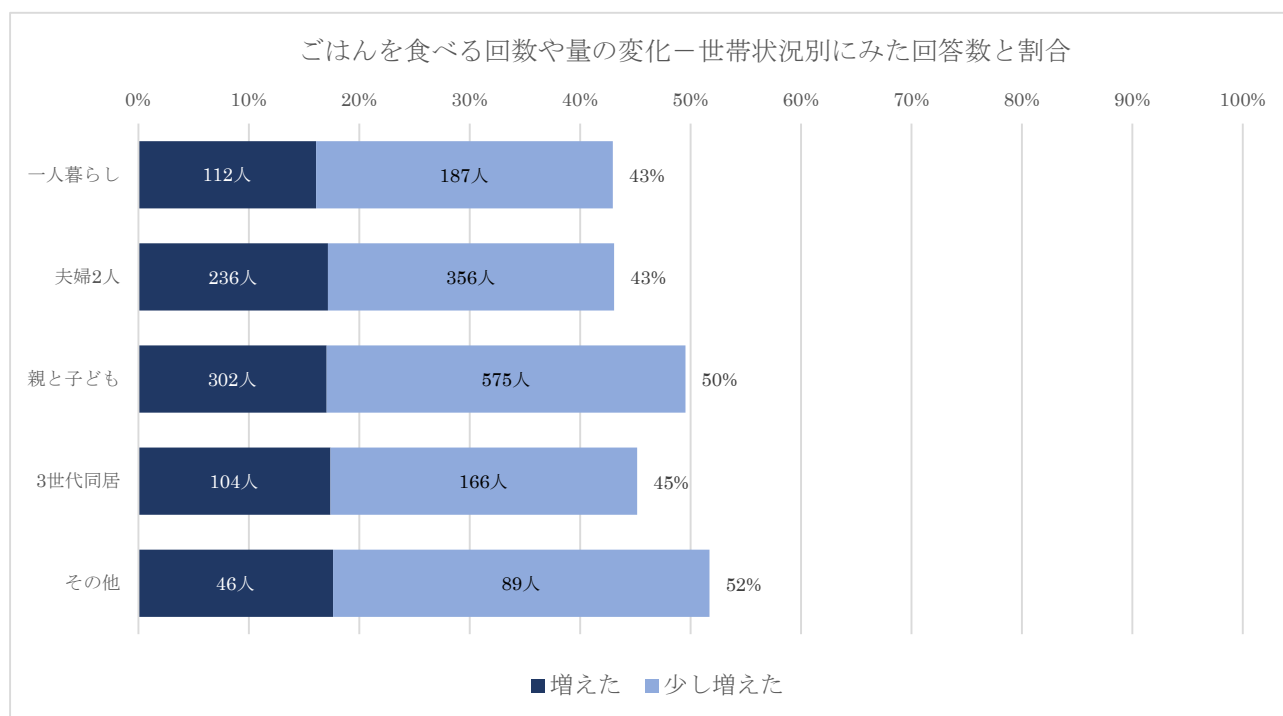
③-3-1 ごはんを食べる量や回数の向上一世帯状況別集計 (単位：人、割合：%)

	一人暮らし	夫婦2人	親と子ども	3世代同居	その他	合計
参加者（事後）N	696	1,374	1,770	598	261	4,699
増えた	112	236	302	104	46	800
少し増えた	187	356	575	166	89	1,373
有効層回答者合計	299	592	877	270	135	2,173
有効数の割合 n/N	43	43	50	45	52	46

※合計数の誤差は記入漏れのため。

③-3-2 世帯状況別集計 (グラフ)

N=4,699 n=2,173



③-3-3 世帯状況別集計の結果

食育活動体験会の参加を通して、ごはんを増やした人は、全ての世帯が 43%から 52%の範囲内で、その他を除くと親と子ども世帯が一番高く 50%との結果となった。

③ 実践がどう進んだのか、「ごはんを食べる量の変化」を集計する

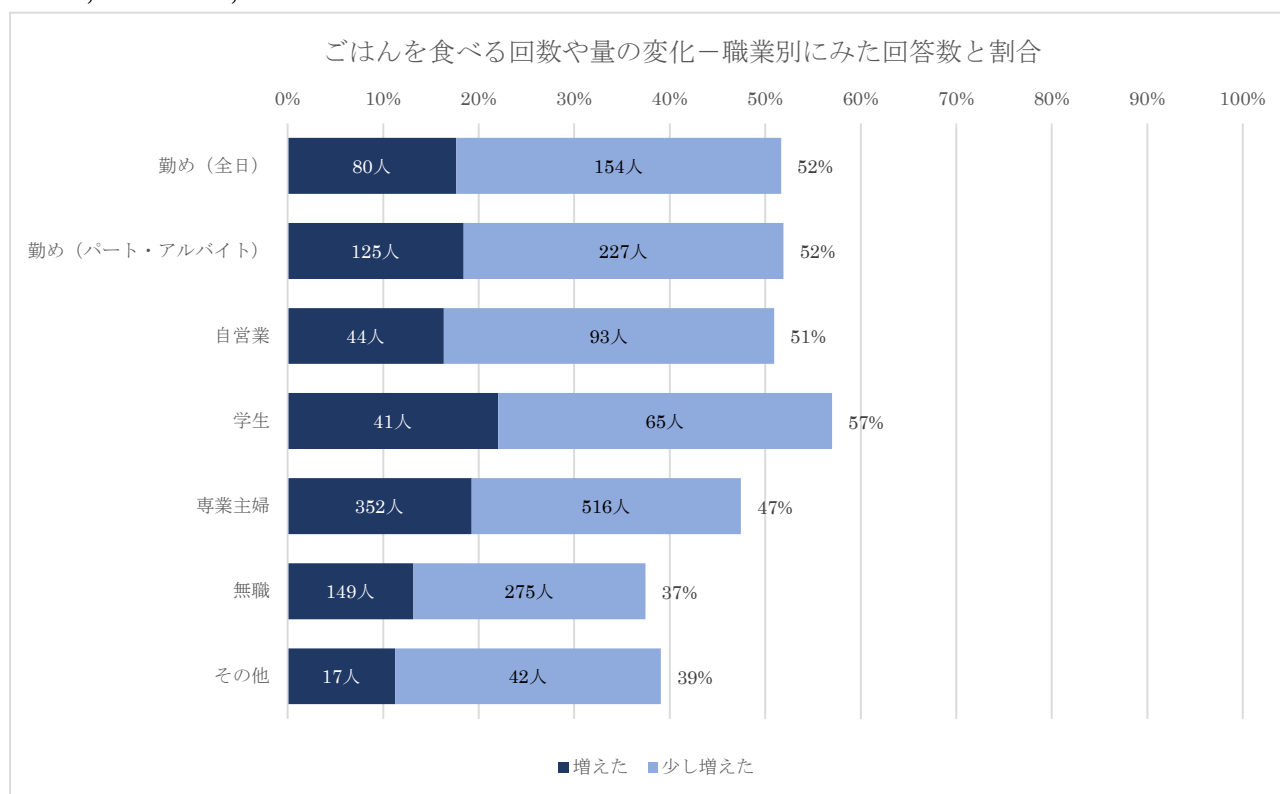
③-4-1 ごはんを食べる量や回数の向上－職業別集計(単位：人、割合：%)

	勤め (全日)	勤め(パート・アルバイト)	自営業	学生	専業主婦	無職	その他	合計
参加者(事後) N	453	678	269	186	1,829	1,132	151	4,698
増えた	80	125	44	41	352	149	17	808
少し増えた	154	227	93	65	516	275	42	1,372
有効層回答者合計 n	234	352	137	106	868	424	59	2,180
有効数の割合 n/N	52	52	51	57	47	37	39	46

※合計数の誤差は記入漏れのため。

③-4-2 職業別集計(グラフ)

N=4,698 n=2,180



③-4-3 職業別の集計結果と考察

職業別集計では、学生に最も高率な 57%の人がごはんを増やしたとの結果が表れた。その要因として、43 ページの年代別集計で、10 代と 20 代のごはん摂取増加に食育活動体験会が有効的だったことが、ごはんを増加させた一因と考察される。

③-5-1 ごはんを食べる量や回数の向上ーチャレンジシート項目別の回答集計

チャレンジシートの A-1「ご飯はお茶碗に軽く一杯は最低食べるようにする」及び B-1「お米を一日 2 食は食べるようにする」を選んだ人は、ごはんを増やす実践につながったのかを集計・分析した。

	A-1 ご飯はお茶碗に軽く一杯は最低 食べるようにする	B-1 お米を一日 2 食は食べるようにす る
選択者数 N	216	126
増えた	40	27
少し増えた	95	58
有効層回答者合計 n	135	85
有効数の割合 n/N (%)	63%	68%

③-5-1 チャレンジシート項目別の集計結果

事後アンケート Q3. (3)① (41 ページ) の回答全体では、ごはんを食べる量や回数が「増えた」人は 21%、「少し増えた」人は 36%で、合計は 57%であったが、チャレンジシートでごはんに関する項目を選んだ人は、A-1 では 63%となり 6%、B-1 では 68%となり、回答全体の値より 11%高い結果となった。

□ ごはんを食べる量や回数の向上について～まとめ

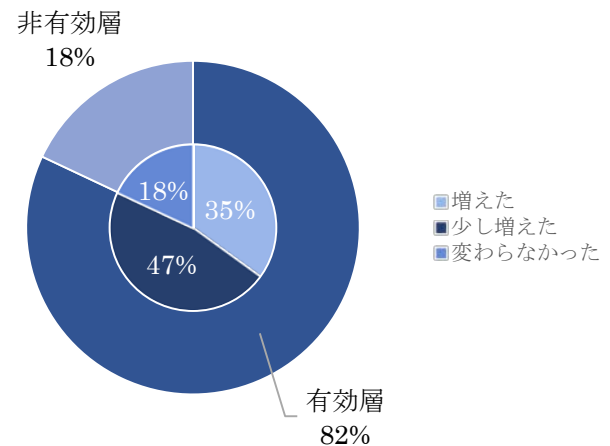
- ・日本型食生活の実践の具体化として、ごはんを食べる量と回数を調査した結果、回答者の 21%の人が「増えた」、36%の人が「少し増えた」、43%の人は「変わらなかった」と答えた。
- ・「増えた」と「少し増えた」人は、体験会別では、加工体験・見学会が最も多く、これは和食に関連する工場訪問であったためと推察できる。次いで、料理講習会と食文化体験セミナーの順となった。
- ・年代別集計では、40 代が 60%と最も高い割合となり、それに次いで 20 代であった。10 代が 30 代と同率となったことは、若年世代の人に、ごはんを食べるノビシロがあり、食育が有効なことが示された。
- ・また、世帯別では、親と子どもが最も高い割合となり、次いで 3 世代同居となったことも 10 代と 20 代の若い人が、ごはんを食べることを増やしたためと思われる。職業別では、学生が最も高い割合となったことからより顕著になった。
- ・そして、チャレンジシート項目で、ごはんに関する項目を選んだ人が、全体値より 6%から 11%高い数値となった点は、自分で決めた食改善への取り組みと食育資格者の応援の結果を反映していると考えられる。

④ 実践がどう進んだのか、「野菜を食べる量の変化」を集計する

- ・事後アンケート Q3, (3) の、Q3 (2) で「より一層実践が進んだ」「少し実践が進んだ」と回答された人 (n : 3, 958 名) への質問 ②「野菜を食べる量や回数が増えましたか」の集計結果

回答内容	回答数 (人)	割合 (%)
増えた	1, 364	35
少し増えた	1, 842	47
変わらなかった	678	18
合 計	3, 884	100

※合計数の誤差は記入漏れのため。



◇35%の人が野菜を食べる量や回数が「増えた」と答え、47%の人は「少し増えた」と答え、18%の人は「変わらなかった」と答えた。

◆「野菜を食べる量や回数の向上」の有効層の分析について

上記、事後アンケート Q3 (3) ①の集計結果より、野菜を食べる量が「増えた」人 35%と「少し増えた」人 47%の、合計 82%を有効層として、食育活動体験会別に集計し、どの食育活動体験会が効果的だったかを分析を行った。

また、食育活動体験会別、年代別、世帯状況別、職業別の分析を行い、どの消費者にどの食育活動体験会が有効であったか見出した。加えて、チャレンジシートで A-2「毎食野菜を食べる」を選んだ人は、野菜を食べることが「増えた」と「少し増えた」との回答につながったのかを分析した。(次ページより記載)

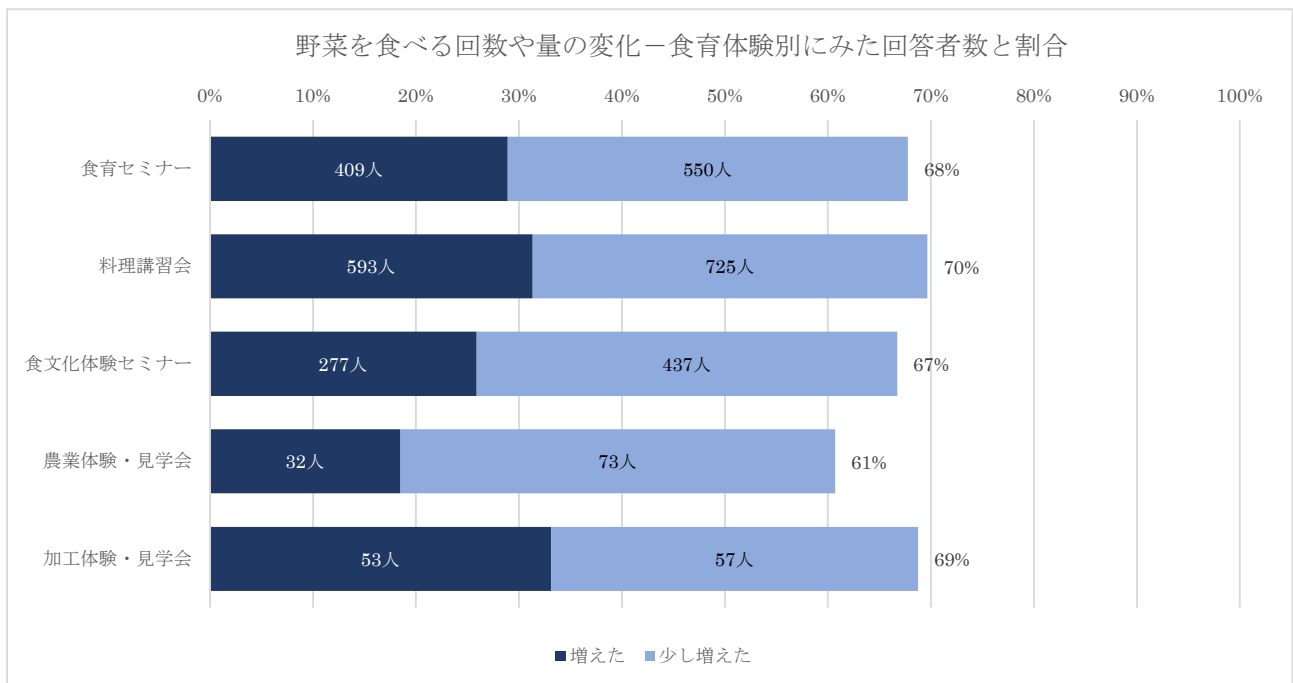
④ 実践がどう進んだのか、「野菜を食べる量の変化」を集計する

④-1-1 野菜を食べる量や回数の向上一食育活動体験会別の集計 (単位：人、割合：%)

	食育 セミナー	料理講習会	食文化体験 セミナー	農業体験・ 見学会	加工体験・ 見学会	合計
回答者数 N	1,415	1,892	1,070	173	160	4,710
増えた	409	593	277	32	53	1,364
少し増えた	550	725	437	73	57	1,842
有効層回答者合計 n	959	1318	714	105	110	3,206
有効数の割合 n/N	68	70	67	61	69	68

④-1-2 食育活動体験会別の集計(グラフ)

N=4,710 n=3,206



④-1-3 食育活動体験会別集計の結果

野菜を食べる量や回数が、「増えた」と「少し増えた」と回答した人は、料理講習会、加工体験・見学会の順に野菜を食べる割合が高まり、すべての食育活動体験会において60%を超える結果となった。

④ 実践がどう進んだのか、「野菜を食べる量の変化」を集計する

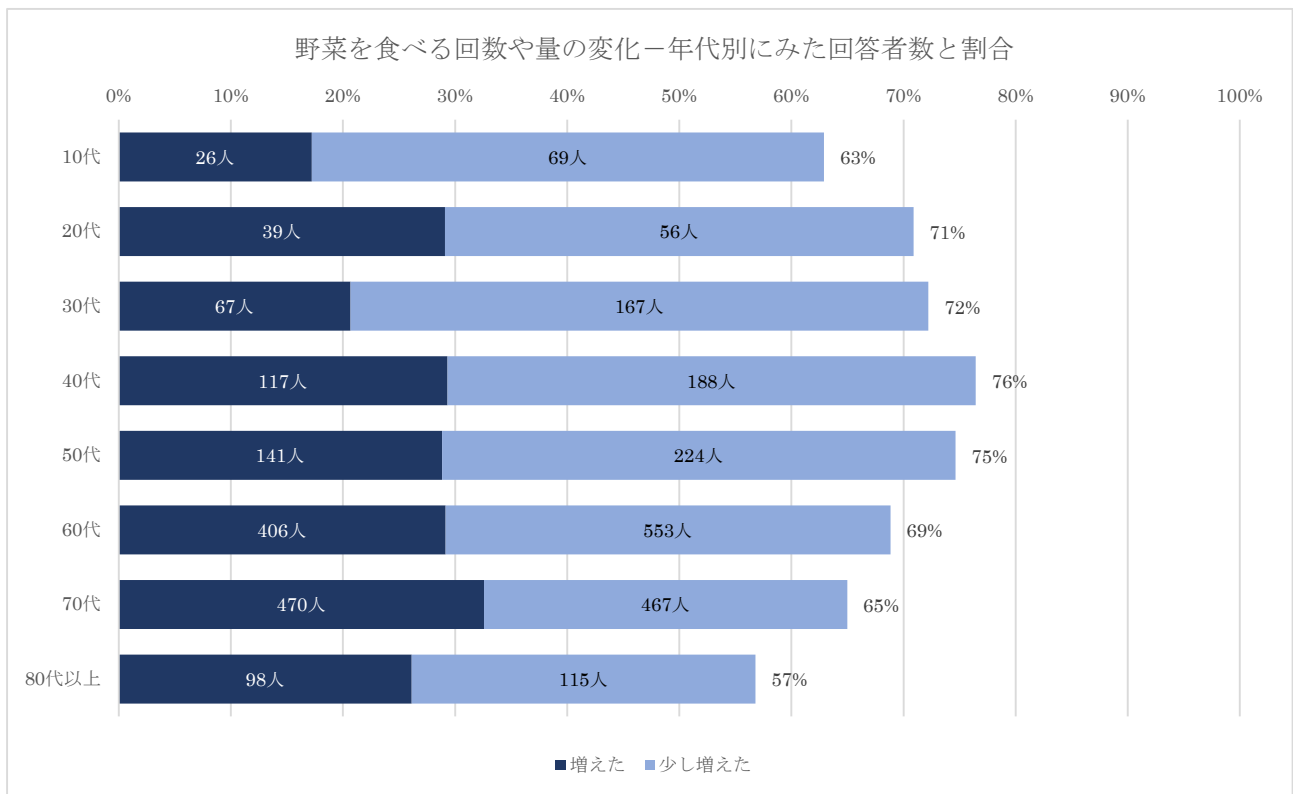
④-2-1 野菜を食べる量や回数の向上一年代別集計 (単位：人、割合：%)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	合計
回答者数 N	151	134	324	399	489	1,393	1,442	375	4,707
増えた	26	39	67	117	141	406	470	98	1,364
少し増えた	69	56	167	188	224	553	467	115	1,839
有効層回答者合計 n	95	95	234	305	365	959	937	213	3,203
有効数の割合 n/N	63	71	72	76	75	69	65	57	68

※合計数の誤差は記入漏れのため。

④-2-2 年代別集計 (グラフ)

N=4,707 n=3,203



④-2-3 年代別集計の結果

40代が最も高く、次いで50代、30代の順で、野菜の摂取を増やす実践結果となった。また各年代とも、食育活動体験会を足がかりに、食生活を変える結果となった。

④ 実践がどう進んだのか、「野菜を食べる量の変化」を集計する

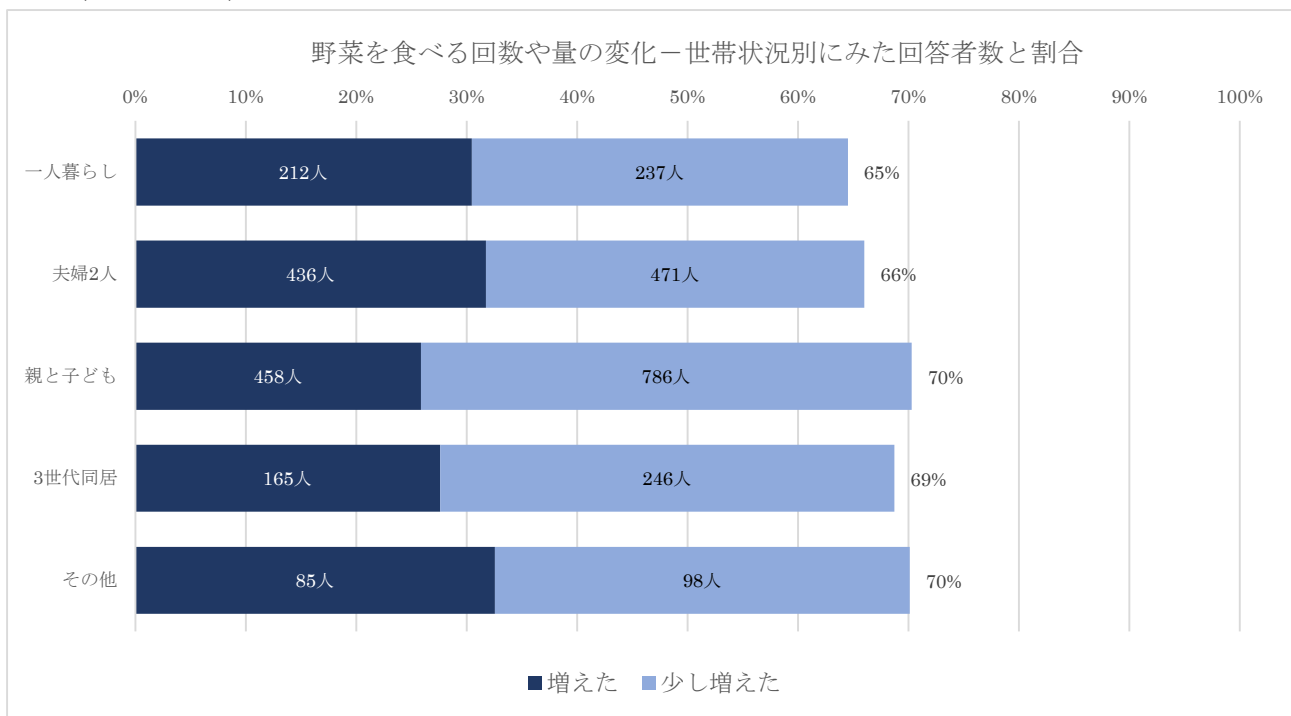
④-3-1 野菜を食べる量や回数の向上一世帯状況別集計（単位：人、割合：%）

	一人暮らし	夫婦2人	親と子ども	3世代同居	その他	合 計
回答者数 N	696	1,374	1,770	598	261	4,699
増えた	212	436	458	165	85	1,356
少し増えた	237	471	786	246	98	1,838
有効層回答者合計 n	449	907	1244	411	183	3,194
有効数の割合 n/N	65	66	70	69	70	68

※合計数の誤差は記入漏れのため。

④-3-2 世帯状況別集計(グラフ)

N=4,699 n=3,194



④-3-3 世帯状況別集計の結果

野菜を食べることが、「増えた」と「少し増えた」を合わせた回答では、親と子どもとその他の世帯が最も高く 70% となり、他の世帯もすべて 65% を超えて、食育活動体験会をきっかけに、野菜を多く食べる日本型食生活を実践する結果となった。

④ 実践がどう進んだのか、「野菜を食べる量の変化」を集計する

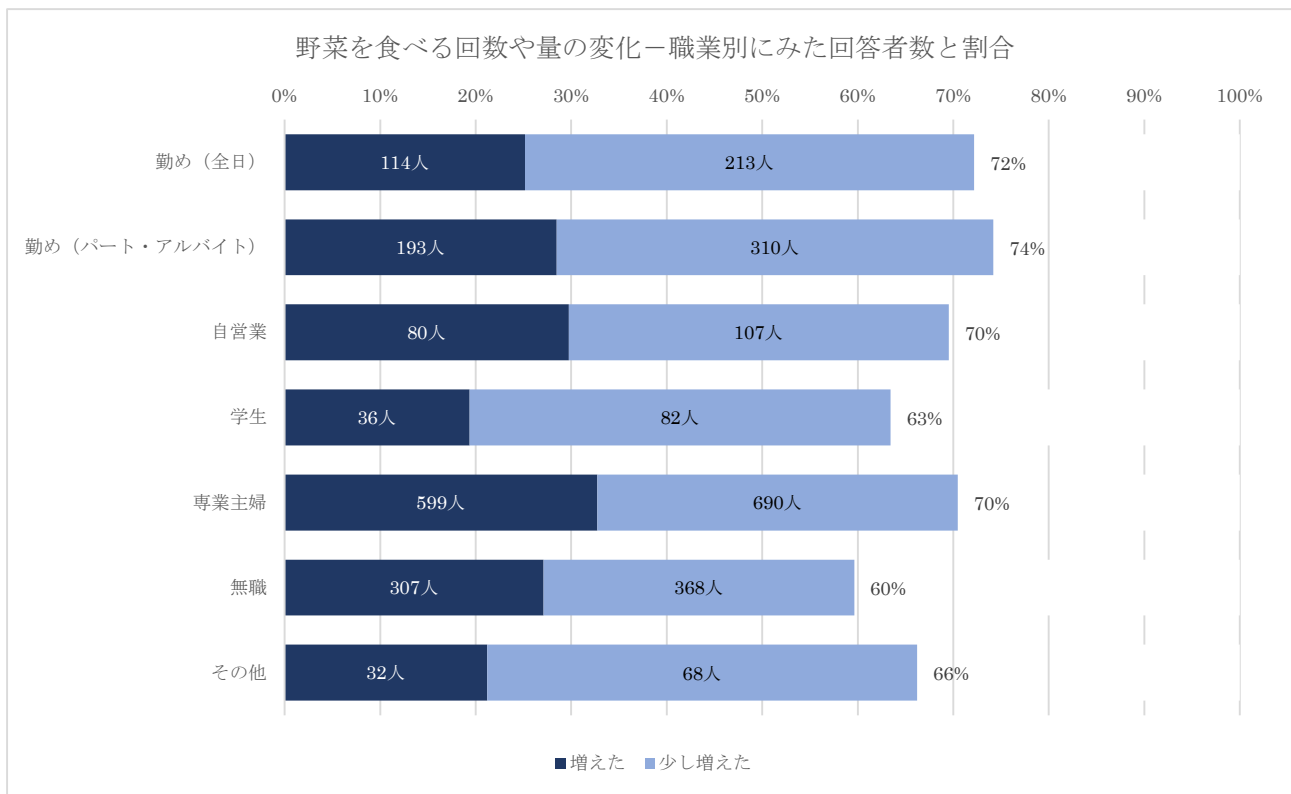
④-4-1 野菜を食べる量や回数の向上一職業別集計(単位：人、割合：%)

	勤め (全日)	勤め (パート・ア ルバイト)	自営業	学生	専業 主婦	無職	その他	合 計
回答者数 N	453	678	269	186	1,829	1,132	151	4,698
増えた	114	193	80	36	599	307	32	1,361
少し増えた	213	310	107	82	690	368	68	1,838
有効層回答者合計 n	327	503	187	118	1,289	675	100	3,199
有効数の割合 n/N	72	74	70	63	70	60	66	68

※合計数の誤差は記入漏れのため。

④-4-2 職業別集計(グラフ)

N=4,698 n=3,199



④-4-3 職業別集計の結果

野菜を食べることが、「増えた」と「少し増えた」を合わせた回答では、勤め(パート・アルバイト)、勤め(全日)の順で、自営業と専業主婦が同率で、いずれも70%を超えて、食育活動体験会を機会に、野菜を多く食べる日本型食生活を実践する結果となった。その一方で、無職の人は60%と最も低い結果となり、他に比べ食改善が進み難いことが示された。

□ 日本型食生活の認知度と実践度の向上～まとめ

◇ 日本型食生活の理解と実践について

- ・食育活動体験会の実施を通して、「より一層理解が深まった」人が 50%、「少し理解が深まった」人が 45%、との結果が得られ、認知度の向上が図られた(詳細は 28 ページに記載、以下()内のページ数表記は同様の意)。
- ・実践度に関しては、30%の人は「より一層実践が進んだ」、56%の人は「少し実践が進んだ」、との結果が得られ、大変高い率で実践が進んだ(34 ページ)。

◇ ごはんを食べる量や回数の変化について

- ・実践の具体化のごはんを食べる量と回数を調査した結果「増えた」人が 21%、「少し増えた」人が 36%、合計 57%の人が食生活を変えた結果が得られた(41 ページ)。

◇ 野菜を食べる量や回数の変化について

- ・実践の具体化の野菜を食べる量と回数では、35%の人が「増えた」、47%の人が「少し増え」、合計 82%の人が食生活を変えた結果が得られた(47 ページ)。

◇ 実践が進んだ要因について

- ・このように高い割合で、食生活を変える結果となった要因は以下の通り考えられる
(ア) 参加型の体験会であった。
(イ) 資料を活用し、しっかりと食育を行うことができた。
(ウ) チャレンジシートを活用して自分で実践課題を決めた。
(エ) 実践している間、資格者から声掛け(応援)があった。

◇ チャレンジシートの効果について

- ・上記の(ウ)については、チャレンジ項目として、ごはんに係る項目を選択した人 A-1「ごはんはお茶碗一杯は最低食べるようにする」では 6%、B-1「お米を一日 2 食は食べるようにする」では、11%と高い数字となった(46 ページ)。
- ・チャレンジシートは、食育体験会参加者数に対しては 75%、事後アンケートの提出数に対しては 90%の人が記入したが、記入しない人へどのようにして食事習慣の改善へと方向づけていくかが、今後の課題である(23 ページ)。

◇ 消費者ニーズの傾向について

- ・日本型食生活の理解度と実践度が高まったとの回答者の分析から、理解が出来ただけ実践ができることが分かった。そして、食育活動体験会別、性別、年代別、世帯状況別、職業別の各分析を行った結果、以下の傾向が把握できた。
(ア) 各食育活動体験会の参加者において、理解度と実践度に大きな差がなく、今回実施した 5 種の体験会が全て有効であった。
(イ) 性別では、男性と女性に理解度と実践度の差がなかった。
(ウ) 年代別では、30 代、40 代、50 代、60 代、70 代において、理解度、実践度ともに高く、それに比べて 10 代と 80 代以上が低かった。
(エ) 世帯別では、一人暮らしが低かったが、その他はあまり変わらなかった。
(オ) 職業別では、学生と無職が低かったが、その他はあまり変わらなかった。